

2. 地殻変動に関する資料

3 頁：体積歪計と多成分歪計（埋込式歪計）の配置図

4～6 頁：体積歪計

蒲郡で 2006 年 1 月 16 日から 22 日にかけて伸び変化が観測された。これと同様の変化は、2005 年 7 月 20 日から 22 日にかけて観測された。

伊良湖 図中の*1 の変化は局所的なものである。

蒲郡 2006 年 1 月 16 日から 22 日にかけて伸び変化が観測された。

この歪変化は、佐久間・浜北の多成分歪計で観測された歪変化とほぼ同期していた。

これと同様の変化は、2005 年 7 月 20 日から 22 日にかけて観測された。

三ヶ日 2006 年 7 月下旬から 8 月頃に見られる縮みとその後の回復の変化は、毎年夏になると見られるもので、水位の変化と相関があり、並行観測している旧観測点でも同様の変化が見られる。2006 年 4 月中旬から降水に伴う局所的な変化が見られた。

榛原 2006 年 5 月 3 日、9 月 26 日、11 月 16 日及び 11 月 29 日に局所的な変化が見られた。

藤枝 2006 年 8 月 30 日に局所的な変化が見られた。

静岡 5 月頃から 7 月にかけての伸び変化とその後の縮み変化は、例年見られるものである。

石廊崎 2006 年 7 月 14 日に局所的な変化が見られた。

東伊豆 2006 年 1 月 25 日から、2 月 21 日から、3 月 30 日、4 月 17 日から及び 11 月 10 日から、伊豆半島東方沖の地震活動に伴う縮み変化が見られた。2006 年 4 月 21 日に伊豆半島東方沖の M5.8 の地震に伴うステップ状の変化が見られた。

網代 2006 年 4 月 21 日に伊豆半島東方沖の M5.8 の地震に伴うステップ状の変化が見られた。

7～11 頁：多成分歪計（掛川、春野、佐久間、本川根、浜北）

掛川、佐久間、本川根及び浜北で、2006 年 8 月 27 日頃から 9 月 1 日頃にかけて歪変化が観測された。

これと同様の変化は、2005 年 7 月 20 日から 22 日にかけて、及び、2006 年 1 月 16 日から 22 日にかけて観測されている。

掛川、佐久間、本川根および浜北

2006 年 8 月 27 日頃から 9 月 1 日頃にかけて歪変化が観測された。

佐久間および浜北

2006 年 1 月 16 日から 22 日にかけて歪変化が観測された。

この歪変化は、蒲郡の体積歪計で観測された歪変化とほぼ同期していた。

本川根

2006 年春頃から歪 4 で局所的な変化が見られた。

浜北

2006 年 7 月 19 日以降及び 12 月 26 日以降、センサーのごく近傍で局所的な変化が見られた。2006 年 10 月下旬から 11 月上旬にかけて歪 1 で局所的な変化が見られた。

1 2 頁：東海地方の最近の地殻変動 <国土地理院資料>

上の図：スロースリップ（ゆっくり滑り）終了後の2005年12月～2006年12月までの地殻変動を示す。現在は、下左図のスロースリップ開始以前の定常的な状態と同様の傾向を示しており、スロースリップは現在起きていないものと考えられる。

1 3 頁：最近 2 ヶ月ごとの東海非定常地殻変動（水平変動）大潟固定<国土地理院資料>

大潟観測点を基準とする2005年11月～2007年1月の期間における2ヶ月間毎の変動を示したもの。最新の（8）では北西方向の矢印が見られるが、変化は小さく季節変動等が現れているものと思われる。現在、スロースリップによる地殻変動は起きていないと思われる。

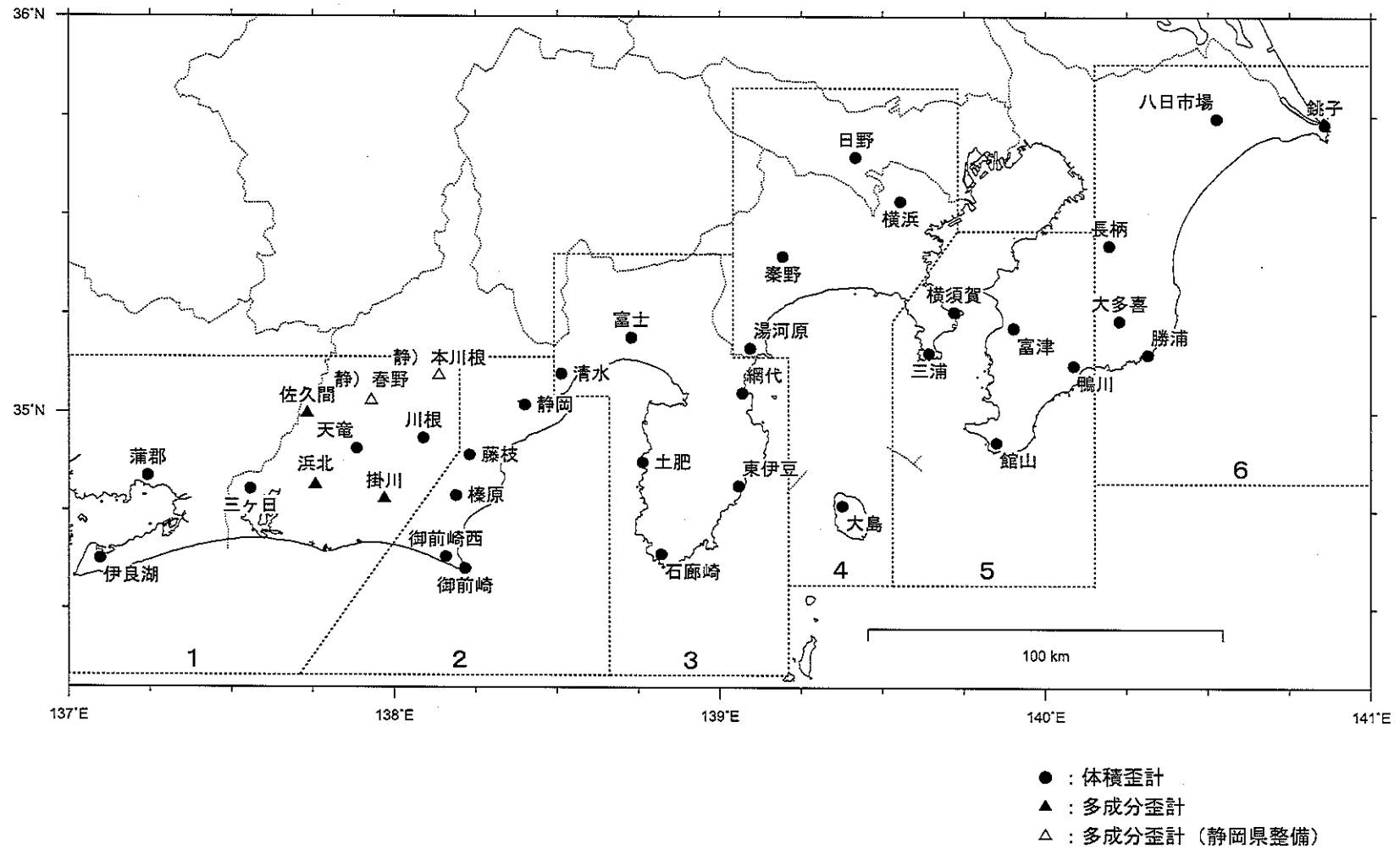
1 4 ～ 1 5 頁：1 年間で見た東海非定常地殻変動（大潟固定）<国土地理院資料>

（1）～（6）はそれぞれ2001年～2006年の、各1年間の変動を示し、（7）は最新の2007年1月20日までの1年間のデータで変動を見たものである。非定常的な変動の水平成分はほとんど見えず、上下変動もほとんど見られない状況となっている。

1 6 頁：東海非定常地殻変動（大潟固定）<国土地理院資料>

1996年4月から2007年1月20日までの各観測点の地殻変動の時間変化を示す。

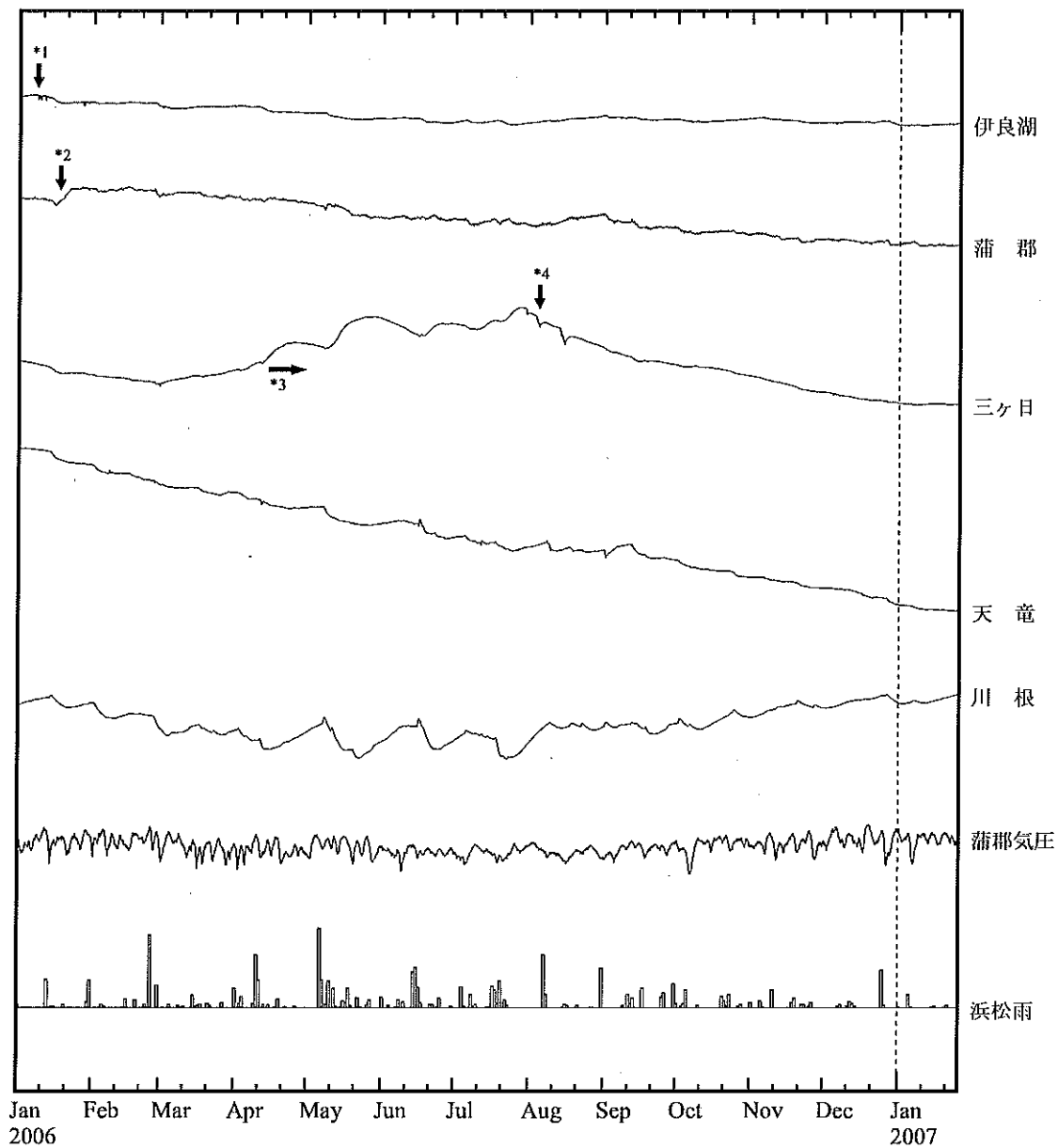
埋込式歪計の配置図



地殻体積歪変化 時間値 (第1区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

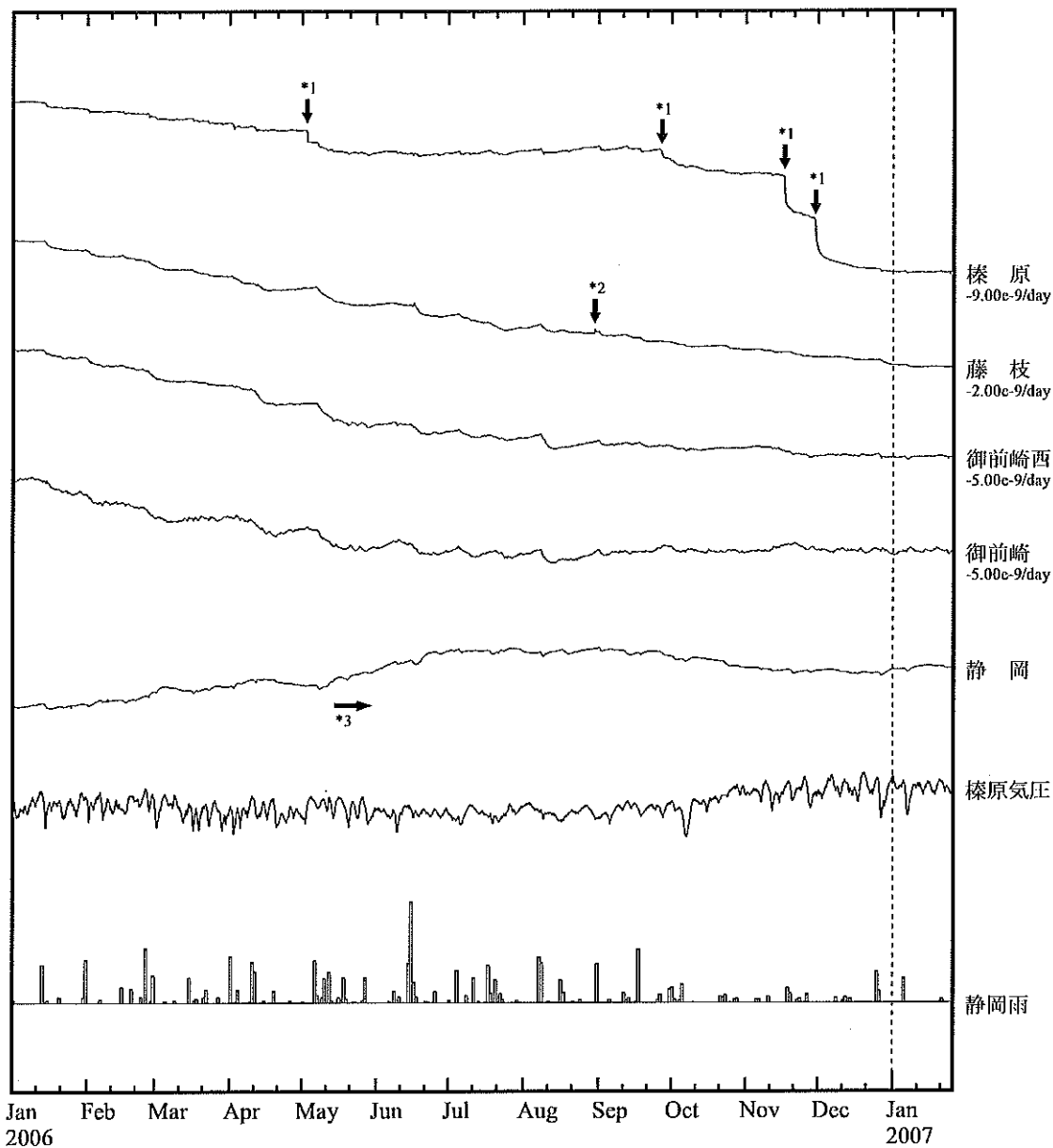
Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
50 mm/day



地殻体積歪変化 時間値 (第2区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

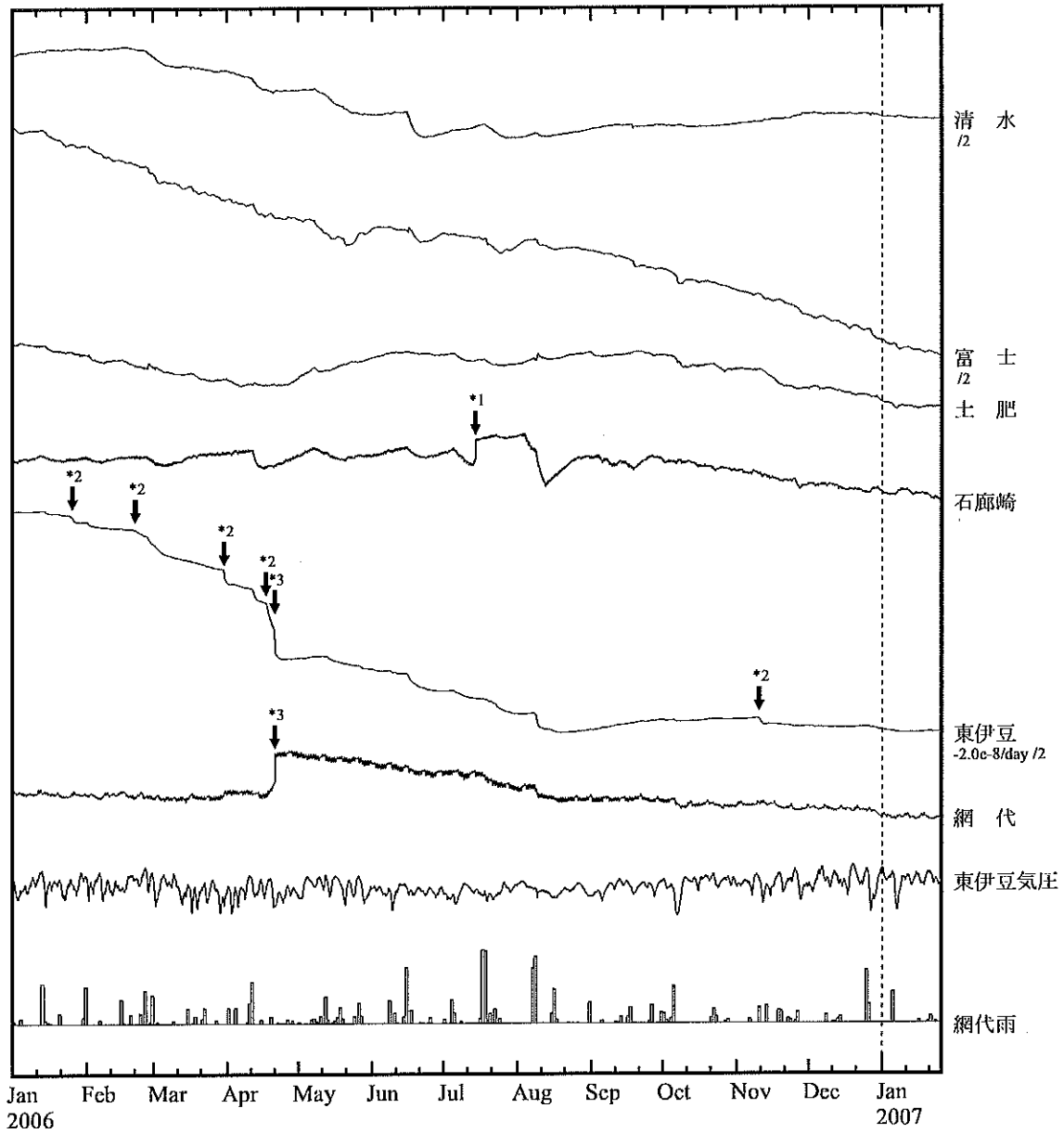
Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
50 mm/day



地殻体積歪変化 時間値 (第3区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

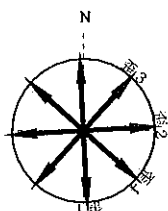
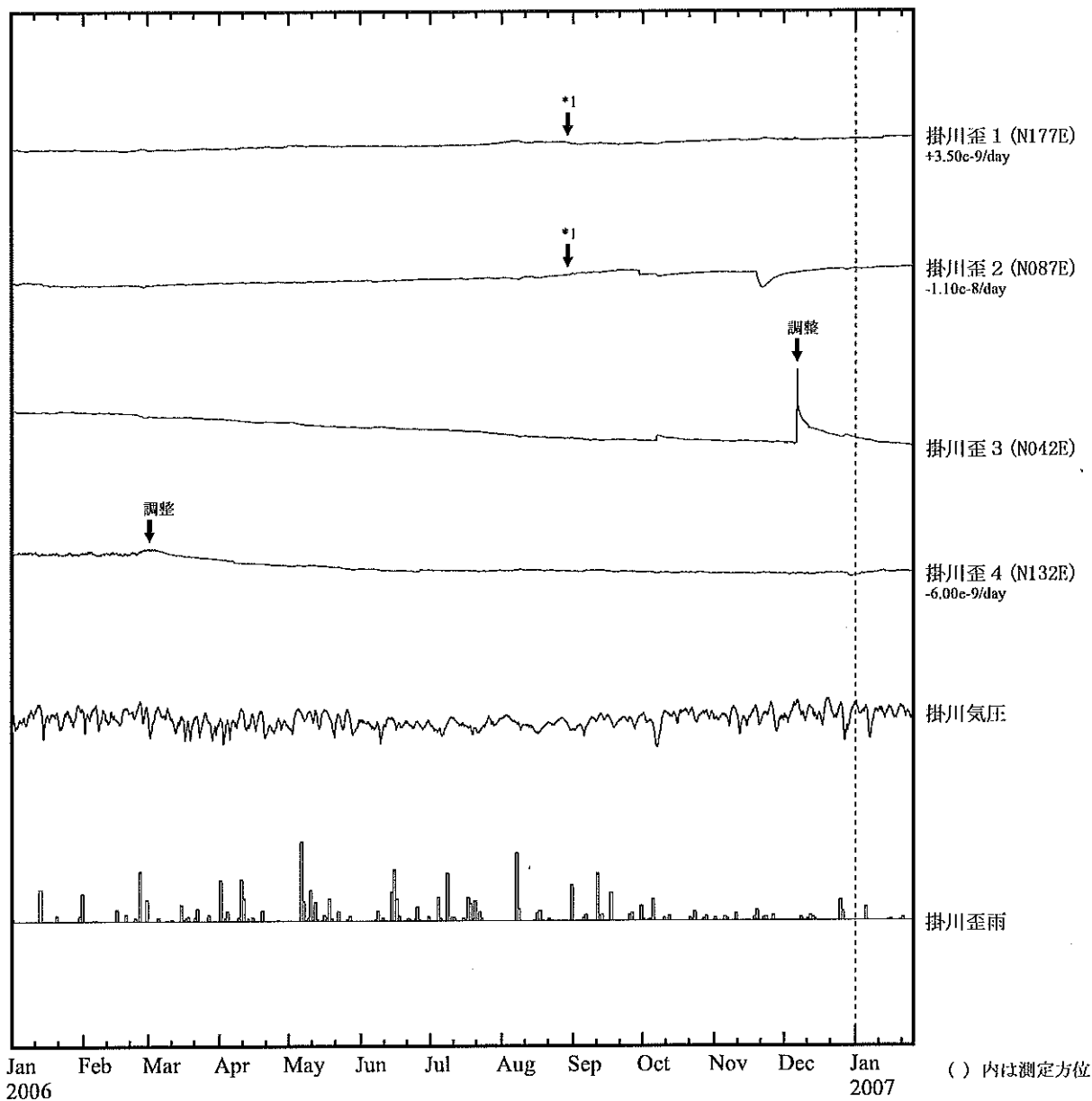
Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
50 mm/day



掛川歪変化 時間値

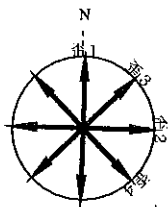
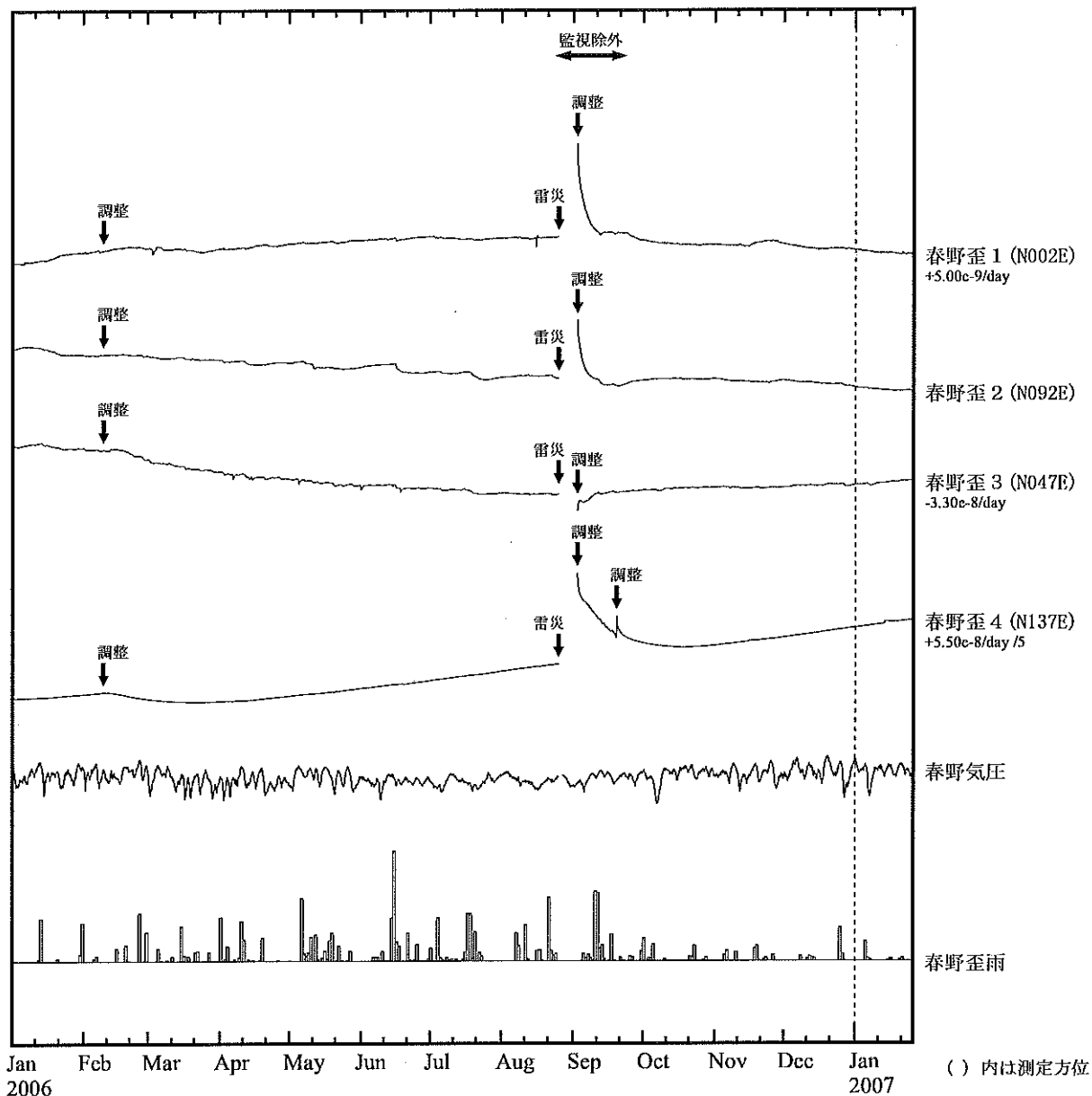
・気圧, 潮汐, 地磁気補正データ

Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
50 mm/day



・気圧，潮汐，地磁気補正データ

Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
50 mm/day

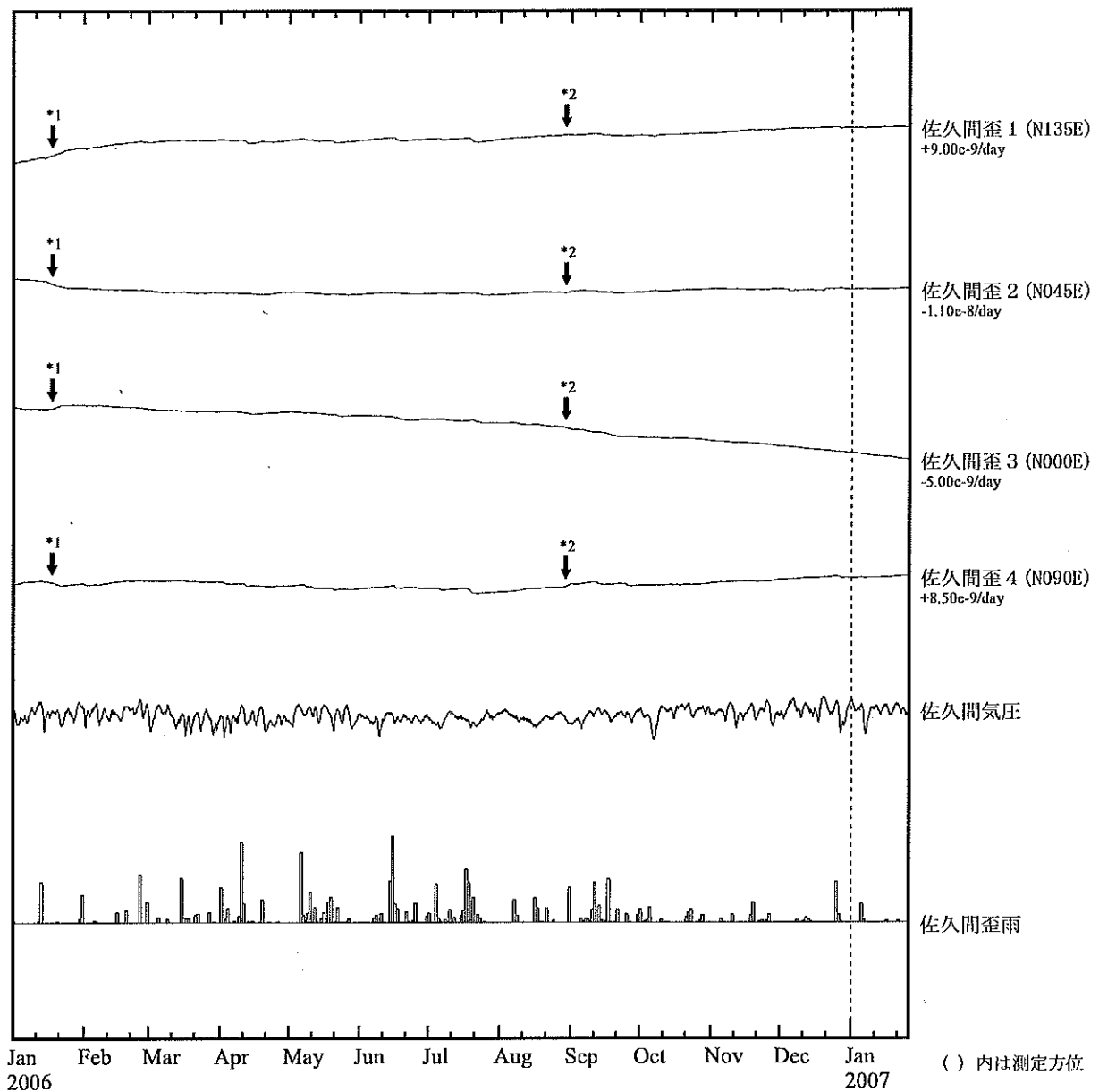


気象庁作成

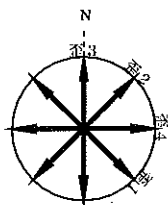
佐久間歪変化 時間値

・気圧、潮汐、地磁気補正データ

Exp.
 $\uparrow$ 2.0e-07 strain
 30 hPa
 50 mm/day



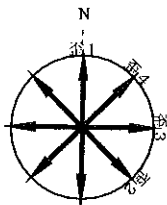
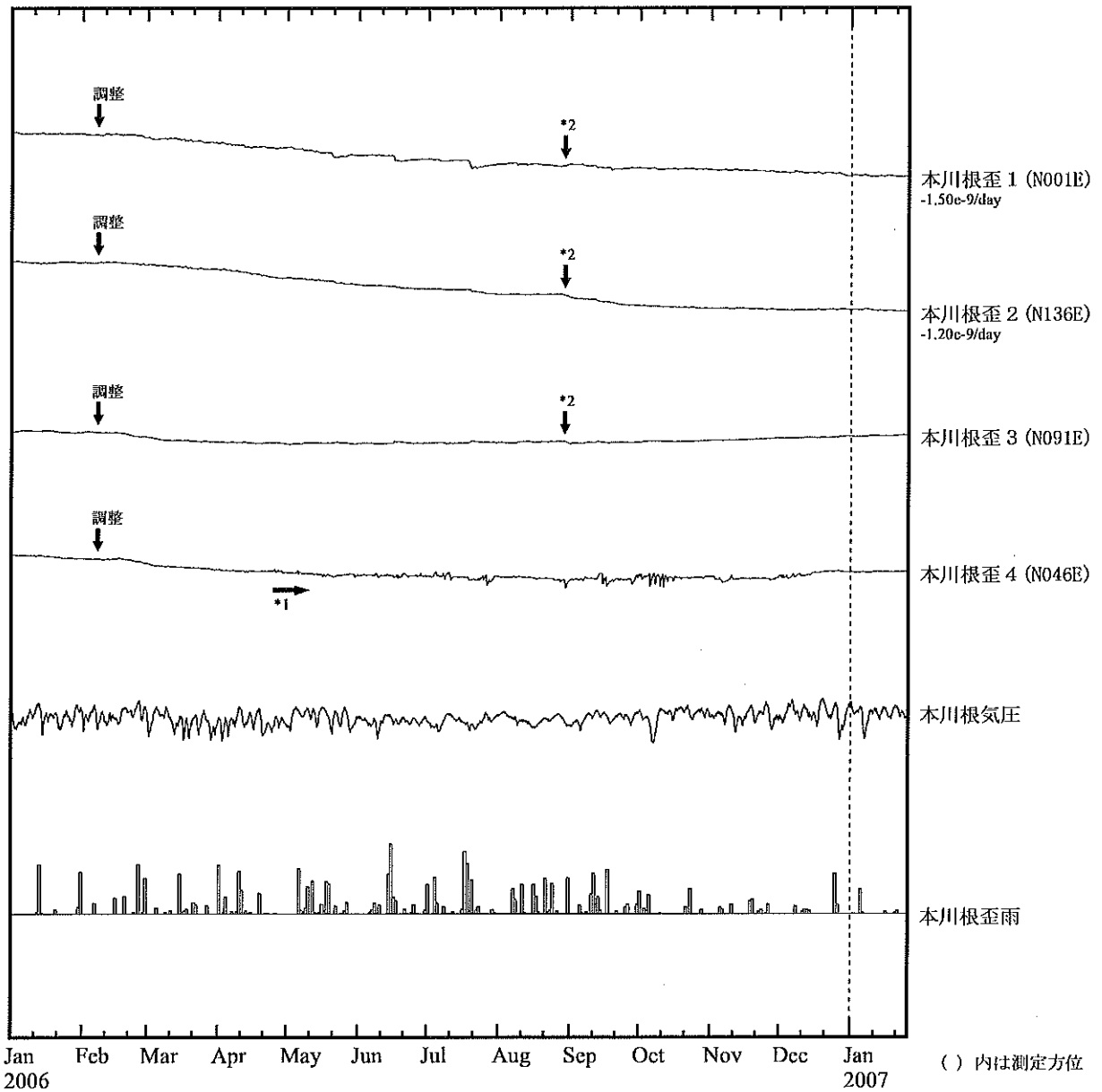
() 内は測定方位



本川根歪変化 時間値

・気圧、潮汐補、地磁気正データ

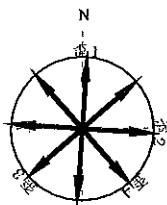
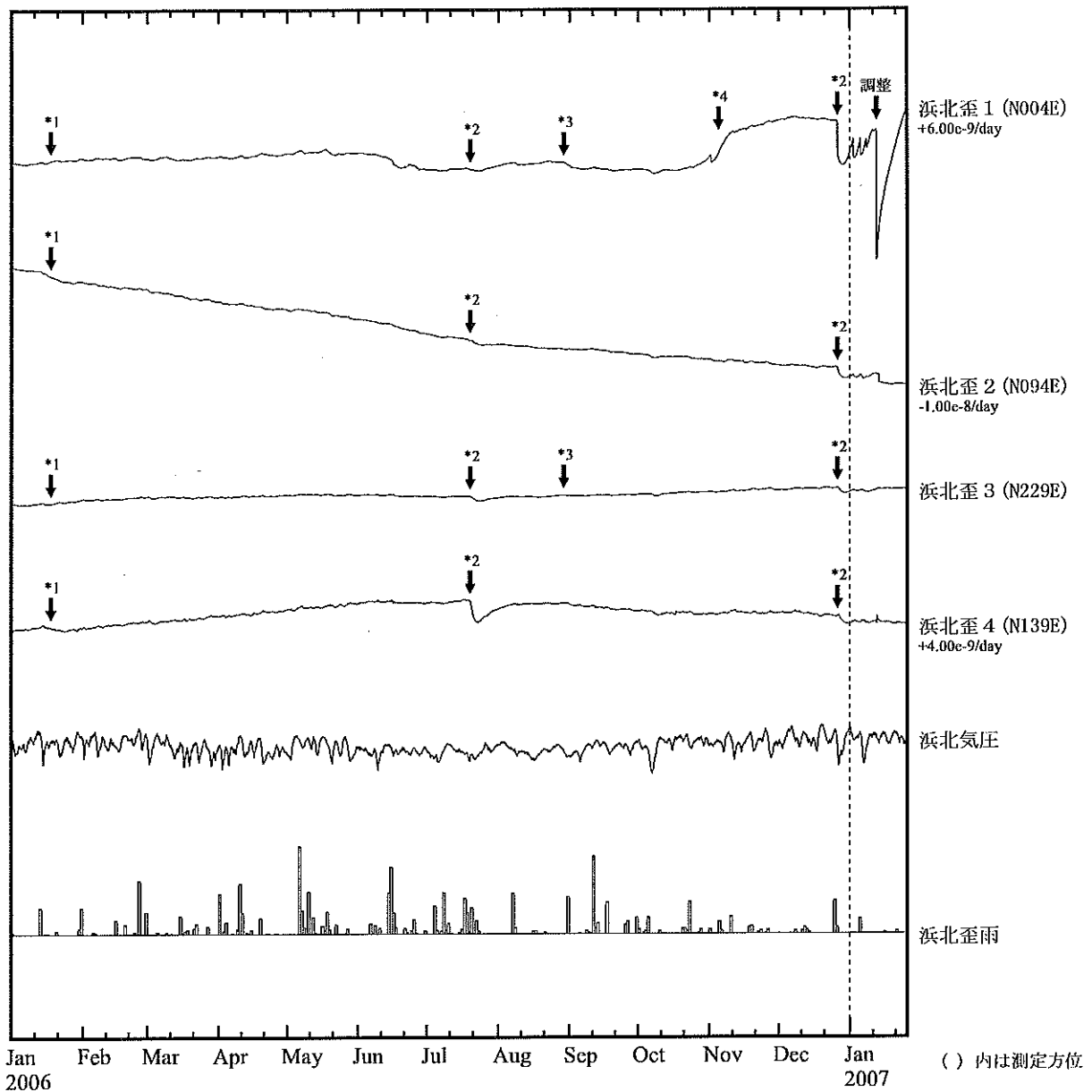
Exp.
 ↑ 2.0e-07 strain
 30 hPa
 50 mm/day



浜北歪変化 時間値

・気圧，潮汐，地磁気補正データ

Exp.
 ↑ 2.0e-07 strain
 30 hPa
 50 mm/day

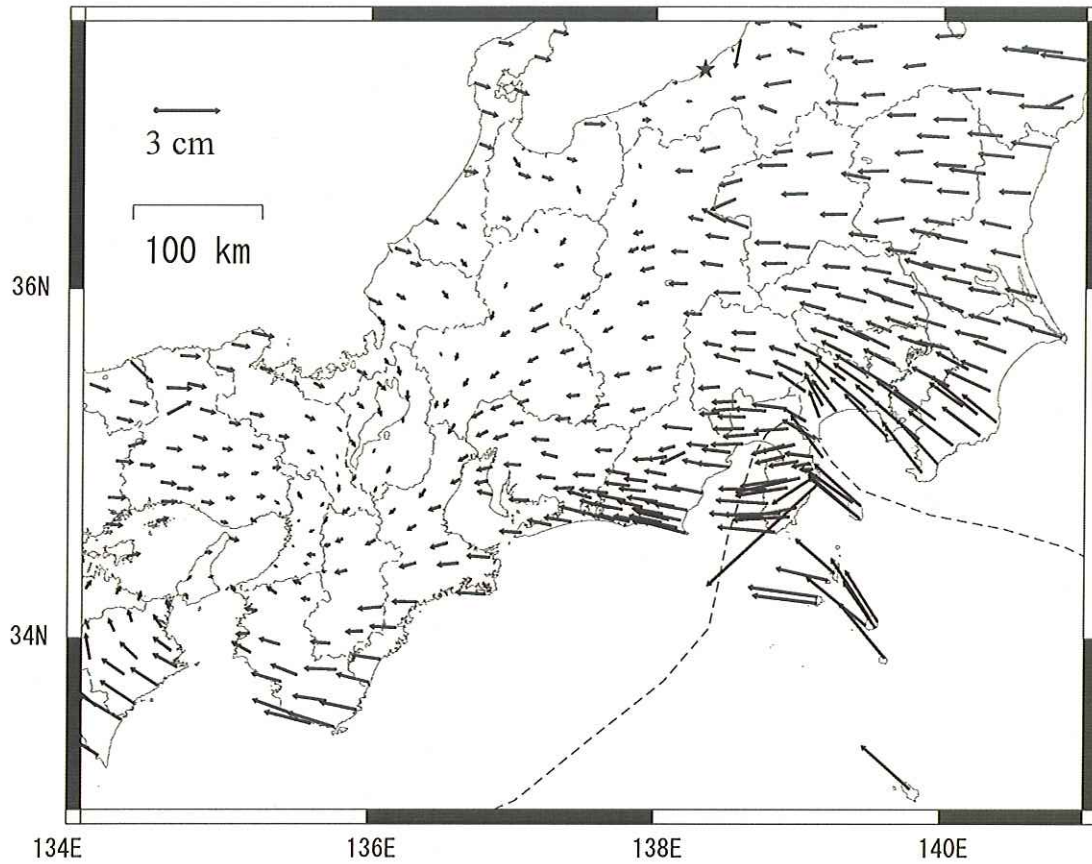


東海地方の最近の地殻変動（水平変動）【大湊固定】

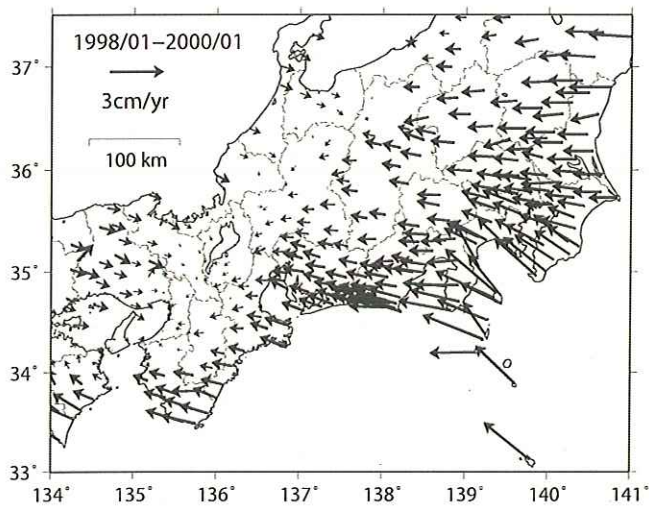
（2005年12月～2006年12月）

基準期間：2005/12/28～2006/1/6 [F2：最終解]

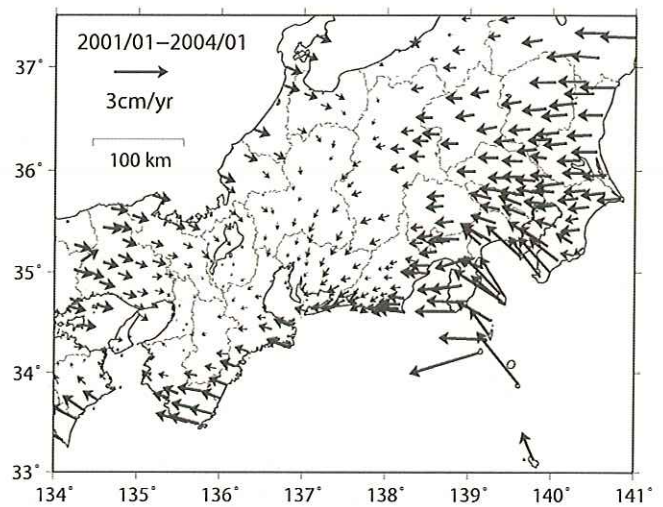
比較期間：2006/12/28～2007/1/6 [F2：最終解]



スロースリップ開始以前の地殻変動速度
（1998年1月～2000年1月）



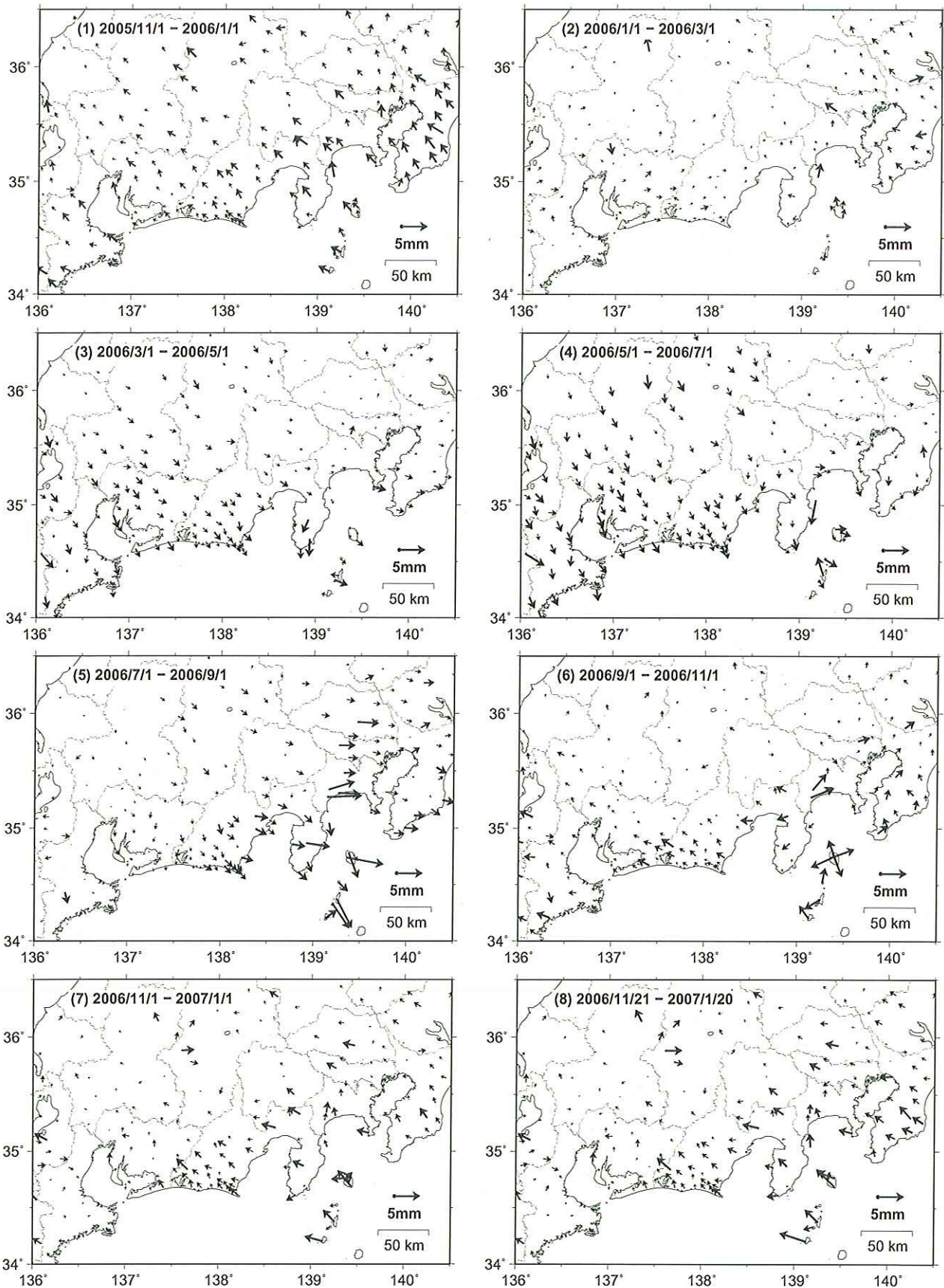
スロースリップ進行期の地殻変動速度
（2001年1月～2004年1月）



国土地理院資料

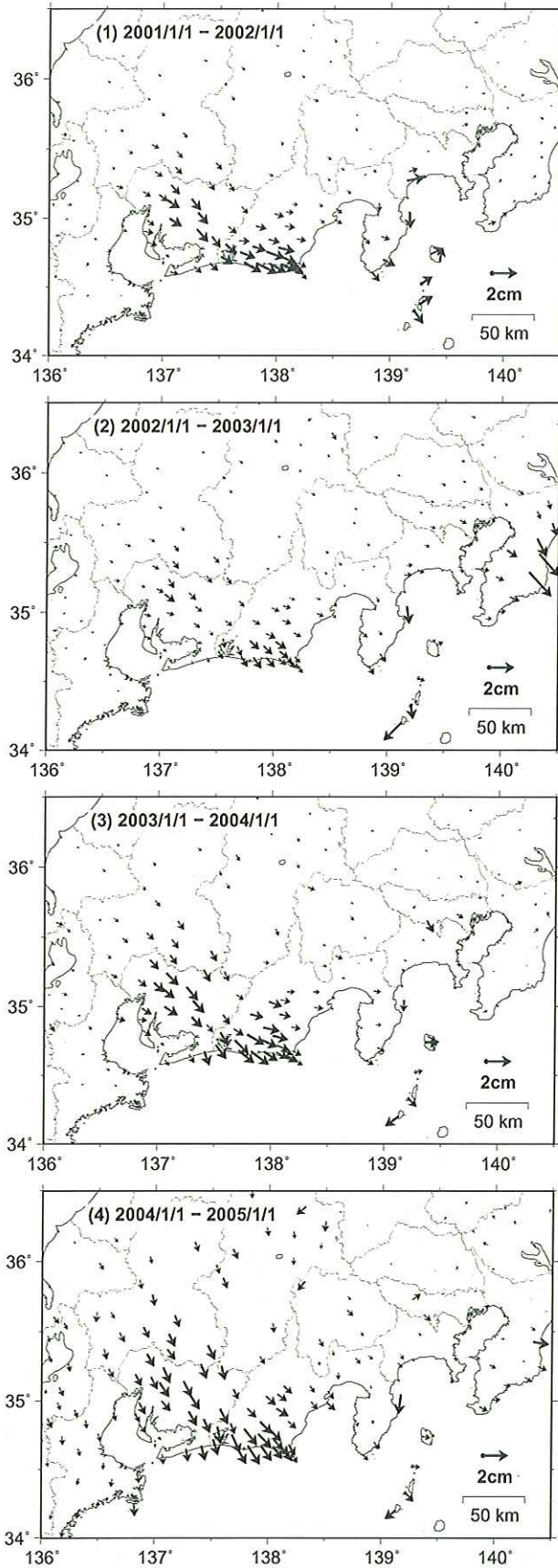
2ヶ月ごとの東海非定常地殻変動（水平変動）【大湊固定】

○平滑化した非定常地殻変動について、2ヶ月ごとの変動量を表示している。

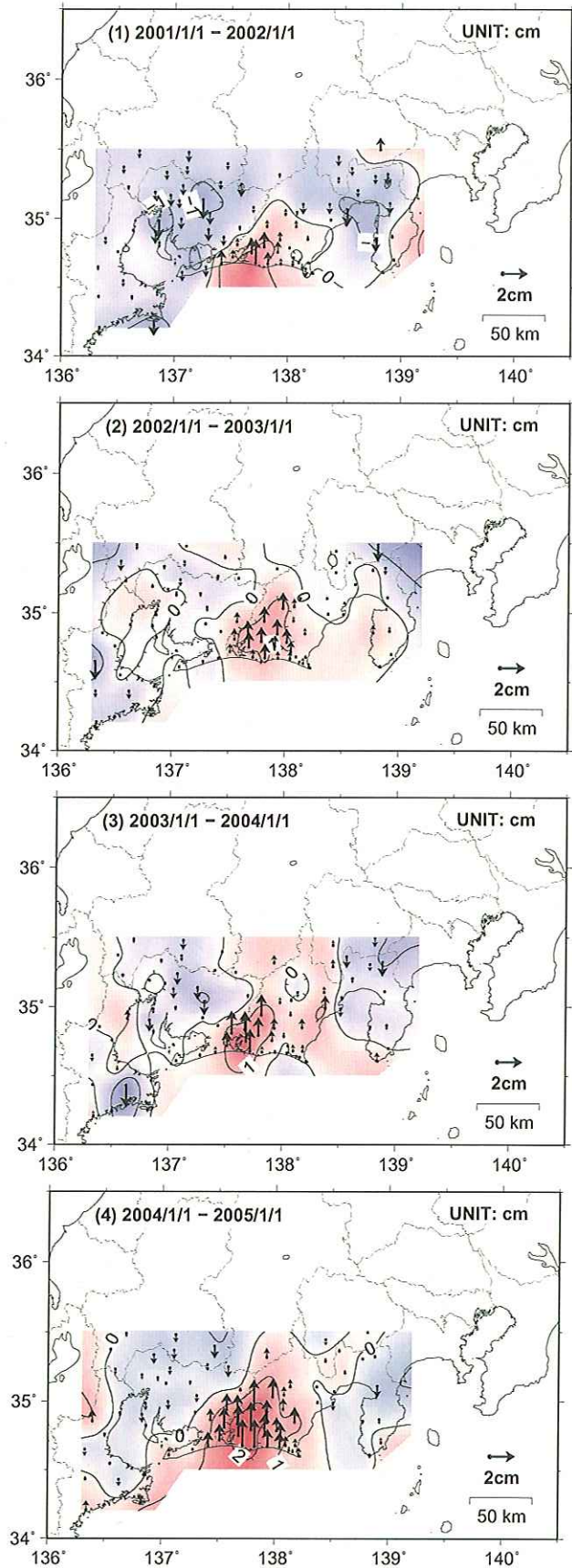


1年間で見た東海非定常地殻変動（１）【大潟固定】

【水平変動】



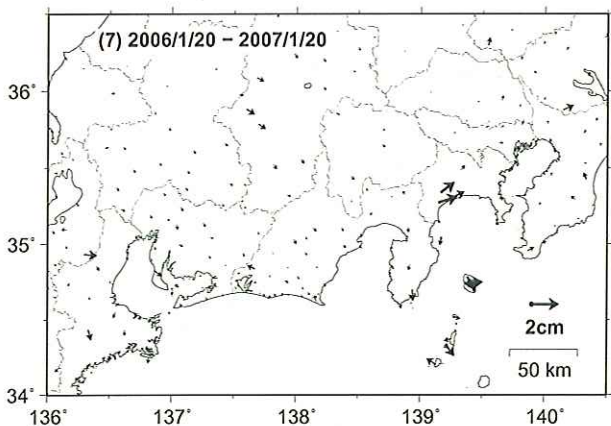
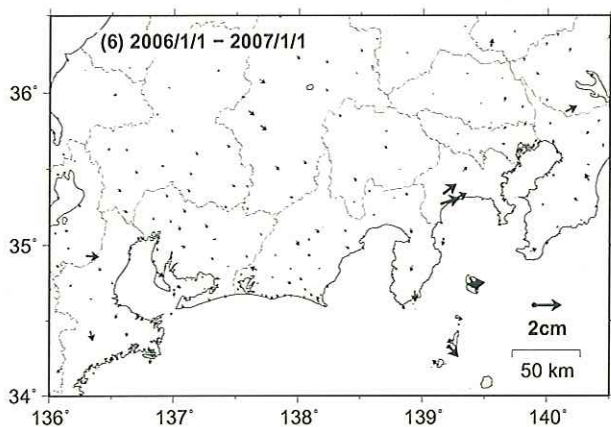
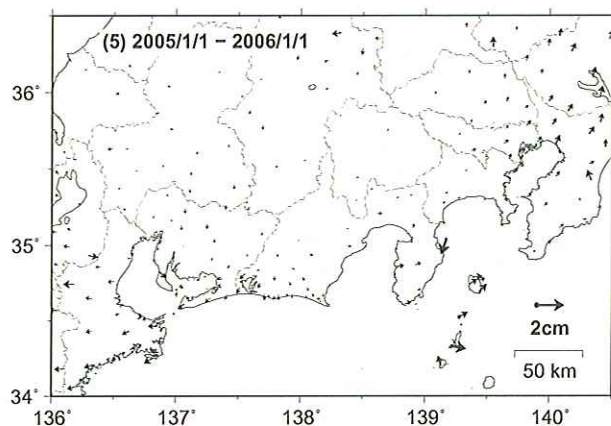
【上下変動】



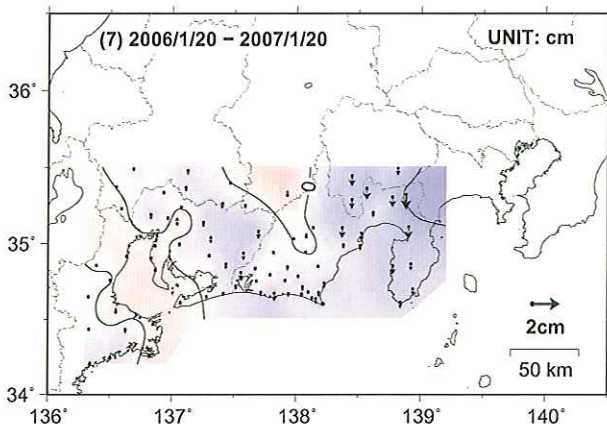
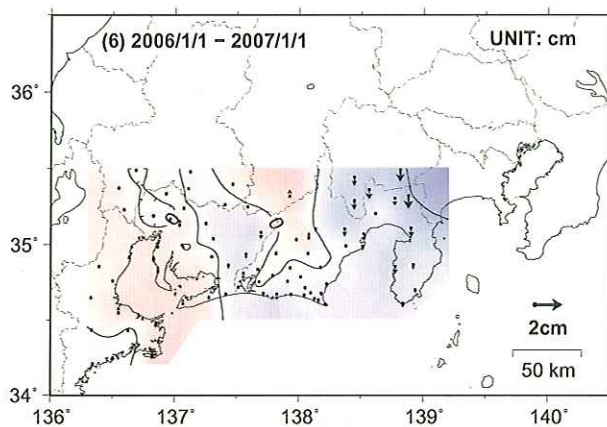
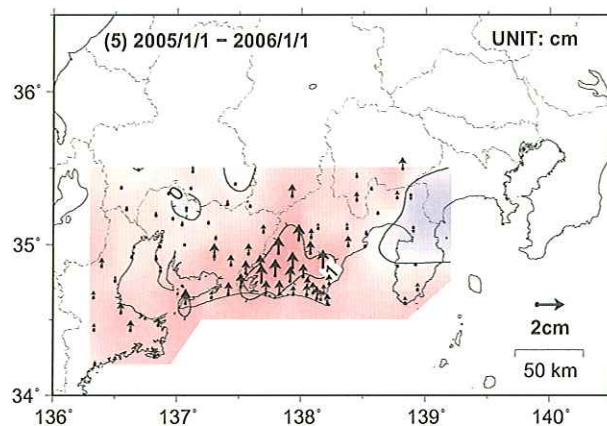
- ・（４）は、２００４年９月５日に発生した紀伊半島南東沖の地震および同年１０月２３日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響を取り除いています。
- ・２００４年９月～２００５年初めのデータには、２００４年９月５日に発生した紀伊半島南東沖の地震の余効変動の影響が含まれると考えられます。

1年間で見た東海非定常地殻変動(2)【大渦固定】

【水平変動】



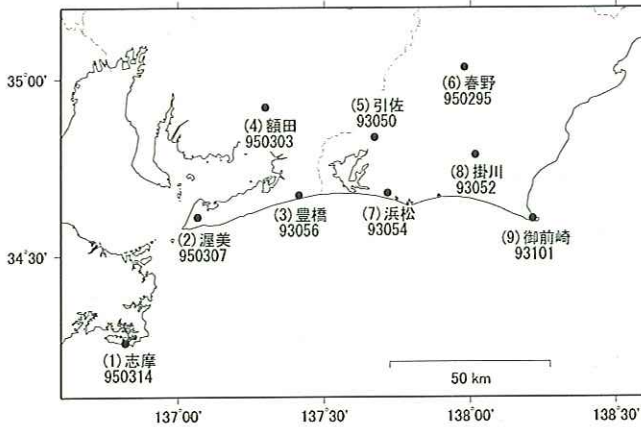
【上下変動】



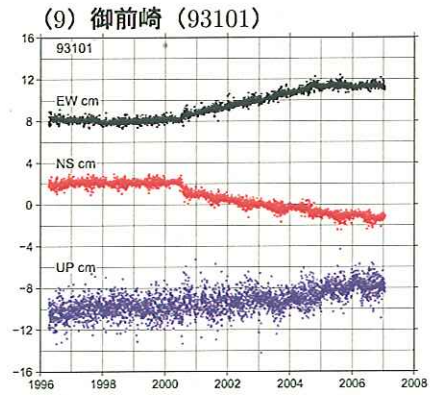
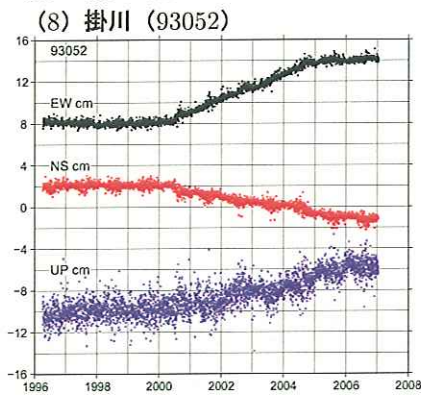
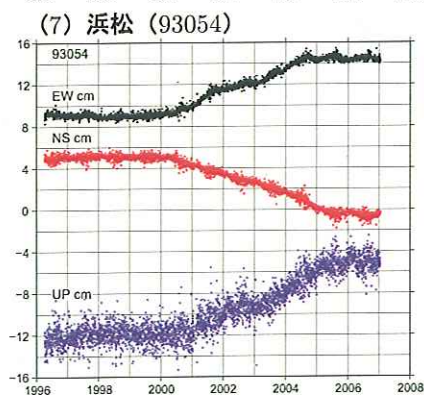
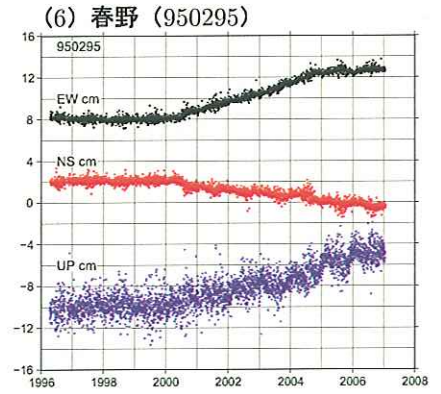
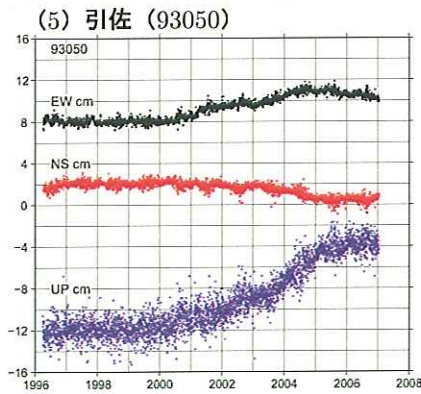
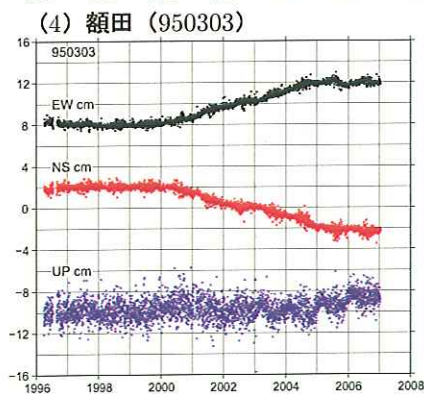
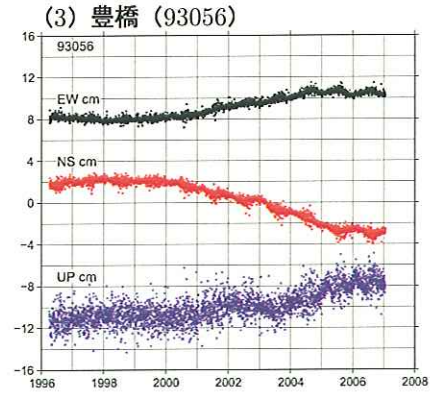
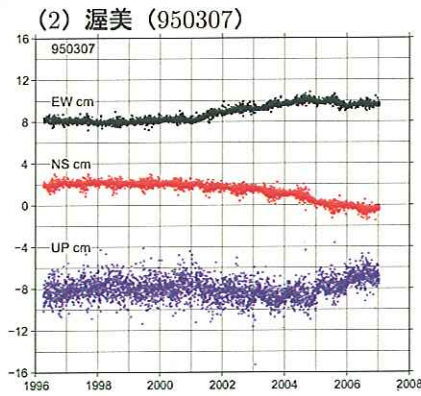
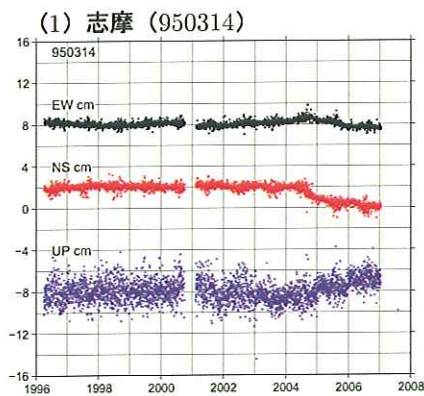
国土地理院資料

東海非定常地殻変動 時系列【大潟固定】

最終解 1996/4/10 - 2007/1/6
速報解 2007/1/7 - 2007/1/20



- 1998年1月～2000年1月のデータから平均速度および年周変化を推定して平均的な地殻変動を求め、それを元の時系列データから除去している。
- 2003年以降の上下成分は年周補正を行っていない。
- 2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震による地殻変動の影響は取り除いている。
- 2004年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響は取り除いている。
- 2004年9月から2005年初頭までは、2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震の余効変動の影響が含まれていると考えられる。



国土地理院資料